

經濟小學

下

東京
新刊
東京
新刊
東京
新刊

1029
249
共
二
本

別室
閲覧

X

原本を出納する
(複写は別室にて
全冊マイクロフィルムから)

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

始



特 279
249

月台入手文部省蔵書

經濟小學下編

江戶開成所教授職並
神田孝平重譯

畜積財本

國中ノ畜積及ヒ財本ノ數ハ常ニ變化シテ定マズ。然レテ變
 アリ減變スル。又緩増急増緩減急減。別ナリ。富ハ金
 國中ノ畜積及ヒ財本ノ數ハ隨テ消費スルハ隨テ回生ス
 回生スル者或ハ舊物ニ復シ或ハ別物ニ變ス
 畜積ノ一分財本ニ非サル者ハ人間ノ用ニ充テテ消費ス
 蓋シ消費ヒサレハ人間ノ用ヲ為サズ。然レテ蓄積ハ
 財本ヲ消費スルハ其舊量ニ加倍シテ回生セハハ不法
 ナリ。故ニ蓄積財本ノ用ニ充テテ消費スルハ蓄積財本ノ



經濟小學下編

一

凡ノ財本器械屋宇ノ如ク消費ノ遲緩ナルヲ定質ト称シ
種子材料ノ如ク消費ノ急速ナルヲ變質ト称ス但シ定質
ト称スル者十分定質ナルニ非ズ變質ト称スル者十分變
質ナルニ非ズ只相比シテ其質ノ較近者ヲ取リテ斯ク
名ツクル也

畜積財本ノ多寡ハ大抵貨幣ヲ以テ之ヲ算ス貨幣ニ非サ
ル者モ價ヲ以テ唱フルナリ故ニ平生何某ノ富ハ何万金
アリ杯トイヘモ其人必ズ其貨幣ヲ有スルニハ非ズ其畜
積ヲ貨幣ニ比スレハ何万金ノ價アリト云フナリ
同時同地ニ住スル人ノ貧富ハ右ノ法ニテ精密ニ算スル
トテ得ヘシ異時異地ノ人ノ貧富ニ至テハ貨幣ノ位相異

ナルカ故ニ之ヲ詳ニ論サズルカス國亦然見此國ノ
貧富ヲ他人ノ遠方ノ國ニ比較ス或ハ今貧富ヲ昔ノ貧富
ニ比較セントスル時ハ各地各時ノ民口産物畜積等ヲ精
細ニ檢査シテ後ニ非サレハ精算スルコトヲ得ズ然レバ
大常ノ言ニ金ノ位ハ百ニ付三或ハ四或ハ五ナト云々事
雖其實ハ金ノ位ニ非ズモ、財本ノ位ナリ、金ノ位ニ之ニ
換フル物品ノ量ニ非ズモ、定ムルカラス世人此理ニ暗
ク之ヲ誤マル者少カラス之ヲ避ケント欲セハ金ノ位
トイフコトヲ止メテ財本ノ利息ト称スヘシ蓋シ利息ハ財
本ヲ借リシ謝物ノ義ナリ

地代ノ始メテ起ルユヘン及ヒ世ノ開クルニ從ヒ次第ニ
 其増スユヘンナト上編ニ畧之ヲ論ス此編只實際ノ景象
 ニ就テ之ヲ推論スルナクハ其意ハ未ダハシク蓋シテ其意ハ推
 凡ソ人民ノ才智ノ漸ヲ以テ上達スルヲハ其日ニ良法ヲ
 發明シ若クハ之ヲ改正シテ大ニ工作ノ力ヲ發ルルヲ以
 テ見ルヘシ極ニ工作ノ力日ニ加ハルカ故ニ地ヨリ生スル
 所ノ材料モ亦日ニ増加シ又此材料ヲ巧藝ヲ盡シテ製造
 スルカ故ニ成ル所ノ品物モ亦日ニ實數ヲ増シ種類ヲ増
 シ世上ニテ之ヲ用フル者モ亦日ニ増スヘシ故ニ其意ハ推
 世事開明ノ勢右ノ如シト雖其間マタ種々ノ故障ノ生ス
 ルアリ蓋シ世ノ未ダ開ケサル際ハ肥沃ニシテ且便宜ナ

地代ノ起ルヲ耕スカ故ニ工作ノ力足ラスト雖所得ノ利却
 テ多シ世ノ既ニ開クルニ及シテハ肥沃便宜ノ地既ニ益
 キ勢ハ已ムコトヲ得スシテ次第ニ瘦土ヲ耕シ不便ノ地
 ニ運送スルカ故ニ種々ノ良法ヲ發明シ工作ノ力大ニ進
 ムト雖所得ノ利前ニ如カサル者アリ且ハ其意ハ推
 既ニ地ヨリ生セン所ノ者ヲ得テ之ヲ鍛練シ万般ノ工造
 物ト為スニ至テハ文物ノ開ケ發明ノ多キニ從テ次第ニ
 増加シ未ダ嘗テ右ノ如キ故障ノ生スルヲ見ス故ニ曰ク
 文明漸ク開ケ人心民衆ノ増加スルハ地産物ノ價ハ漸ク騰
 貴シ玉産物ノ價ハ漸ク下落スヘシ故ニ其意ハ推
 問曰地産ノ價漸ク騰貴スヘシト雖現ニ其騰貴スルヲ見

ナルハ何ソヤ答曰貨幣ハ位モ不騰貴スハハナク又問
 然ラハ地産騰貴ノ証アリヤ曰之ヲ工産ハ價ニ比スハハ
 乃チ見ハハハ假令ハハ工産ハ日ニ下落ス然ルニ天産ハ
 下落セス工産ハ大ニ下落ス然ルニ天産ハ少ク下落ス工
 産ハ貨幣ノ低昂ニ從ヒ或ハ低リ或ハ舊ニ依リ或ハ昂ル
 然ルニ天産ハ獨騰貴ス是皆天産騰貴ノ証ニアラスヤ
 地産物ノ平均價ノ漸ク騰貴スルハ其不足ノ明証ナリ於
 是財主并ニ雇作等其許多ノ量ヲ收納セシカ為メニ耕作
 ノ法ヲ改革シ或ハ別法ヲ工夫シ或ハ避遠ノ地ヨリ運送
 シ来ル
 地産益不足ニシテ之ヲ求ムル益急ナレハ凡ソ地代金納

其金納ノ別ナク亦益騰貴スヘシ但シ金ノ位下落スル時
 ハ金納ハ分騰貴セズ
 地代既ニ騰貴スレハ地代ニ属スル者亦騰貴スルカ故ニ
 地主收納ノ高俄ニ大ニ増加スヘシ假令ハハ宇屋墻壁ヲ
 建築シ地面礦坑ヲ修理スルカ為ニ費マシタル財本ノ代
 ヲ地代ノ高ニ合算スルカ故ニ地主ノ收納ノ高ヲ加倍シ
 其利殆ト量ルヘカラス實ニ人間ノ幸福トイフヘシ只爰
 ニ誠ニヘキハ之ヲ受用スル者往々才徳ヲ備ヘス祖先ノ
 勉勵才能儉約ノ遺徳ニ坐食シ之ヲ人間有益ノ事ニ用フ
 ル事ヲ知ラサルニ至ルナリ
 地代ハ工作ヲ障碍シ物價ヲ昂カラシムル者ニ非ズ工作

ノ障碍物價ノ騰貴却テ地代ヲ騰貴セルムナリ此理上
編既ニ畧之ヲ論ス今又爰ニ之ヲ重論スヘシ夫レ市場臨
時ノ物價ハ供給求取ノ勢ニ從フ者ナレト時ニ劇ク低昂
レテ定マラス平均價ニ至テハ低昂ナキニ非サレト大抵
工作ノ平均費ニ準ス競ヒ悉ク之ニ準セサルモ準セント
スルノ勢アルハ先此理ヲ悟ル而シテ後ニ次ノ理ヲ悟
ルヘシ曰若シ一物ノ平均價工費ノ上ニ出ツル者アレハ
工人ニ利アルカ故ニ工人多ク之ヲ作ラントス但シ多ク
之ヲ作ラントスレハ多量ノ材料ヲ得サルヘカラス多量
ノ材料ヲ得ントスレハ其作費ヲ増サ、ルヘカラス既ニ
其作費ヲ増セハ其平均價ハ下ラス、ハテ地代獨シ騰貴ス

ハ、ハ、是レ自然ノ勢ナリ
世ノ開ケサル際ハ民惟膏腴ノ地ヲ撰ミテ之ヲ耕スノミ
世ノ漸ク開ケルニ從ヒ漸ク瘦土ヲ開ケテ之ヲ耕サ、ルヘ
カラス此時ニ及ヒテ瘦土ヲ開ケテ之ヲ耕サンヨリハ寧ロ
肥土ヲ借りテ之ヲ耕シ收納ノ一分ヲ以テ地主ニ酬フル
ノ優レルニ若カスト云フ者アリテ之ヨリ地代トイフ
ノ起リシナレハ地代ノ騰貴亦世ノ開ケハ一証トナスヘ
シ
世ノ中愈開ケレハ諸物ヲ製造シ世用ニ充ツルノ道マタ
愈弘マルカ故ニ其物本ヲ求ムルノモ亦愈急ナルヘシ情
勢既ニ此ノ如クナレハ後來世事何程開ケ物本何程ヲ求

メ地代何程騰貴スルヤ今ヨリ其限ヲ測ルヲ得ス
 雇直ノ平均高ハ工人ノ總數ト財本ノ總高ノ比例ニヨリ
 テ定マルト上編既ニ畧之ヲ論ス此編之ヲ推論セントス
 ルニ其理深奥ナルヲ以テ頗ル煩重ノ説ヲ為サ、ルヘカ
 ラス
 扱之ヲ論スルノ初メニ先ツ真雇直ト金雇直ノ差別ヲ示
 サ、ルヘカラス是迄雇直ト稱スル者ハ皆真雇直ヲ指レ
 テ云フナリ
 年代推移リ金銀ヲ採ルノ法変レ工費減レテ半ニ至レハ
 世上金銀幣ノ位降ルカ故ニ金雇直ハ増レテ一倍ニ至ル

ヘシ然レニ真雇直ニ至テハ嘗テ変スルヲナシ
 金銀ヲ採ルノ工費若シ増レテ一倍ニ至レハ世上金銀幣
 ノ位昇リ金雇直ハ減レテ半ニ至ルヘシ然レニ真雇直ニ
 至テハ亦嘗テ変スルヲナシ
 世上ニ贖金又ハ紙幣ノ類流行スレハ貨幣ノ位下落シ金
 雇直騰貴スヘシ之ニ反スレハ金銀ノ位昇リテ金雇直下
 落スヘシ只真雇直ハ嘗テ之カ為ニ變セス
 金雇直變セスレテ真雇直變スルヲ亦多シ年凶ナレハ食
 料ノ價騰貴シ真雇直自ラ下落スト雖金雇直嘗テ變セス
 年豊ナレハ食料ノ價下落スルカ故ニ真雇直ハ騰貴スト
 雖金雇直ハ亦未タ嘗テ變セス

右ノ理ニ據レハ雇直ノ平均數ハ間斷ナク低昂シテ定マ
 ラス試ニ問フ人口ト財本ノ比例モ亦常ニ低昂シテ定マ
 ラサルヤ答曰然リ
 一國ノ財本固ヨリ増減アリテ定マラス之ヲ消費スルニ
 定法アリ之ヲ回生スルモ亦定法アリ回生ノ時ニ至テ大
 低利分ヲ得ヘシト雖間マタ之ヲ得サルコトアリ時トシテ
 ハ大利ヲ得ルコトアリ又小利ヲ得ルコトアリ
 人口ト財本ノ比例右ノ如ク低昂定マラス雇直之ニ從フ
 故ニ亦低昂シテ定マラス其極低極昂ノ界限ニ至テハ前
 民今民ノ風俗及ヒ智識ニ關係ス所謂前民ノ風俗智識ト
 云ハ前世人民ノ才德ニシテ今世人口ノ多少財本ノ増減

ニ關係スル者ヲ云フ所謂今民ノ風俗智識トハ今世民間
 ニ流行スル工藝節儉勉勵等ノ事ヲイフ之ヲ要スルニ關
 係スル所甚タ廣キカ故ニ未タ容易ニ論スヘカラサルナ
 リ
 風俗智識全ク開ケサレハ平均雇直雇直一人ノ口ヲ糊ス
 ルニ過キス一旦凶年ニ逢フ時ハ國中ノ財本一時ニ衰耗
 レ寂良工人ノ雇直ハ大ニ低リ智識勉勵節儉ノ足ラサル
 者ハ直ニ餓死ヲ免レス
 風俗智識稍開ケレハ平均雇直一家ヲ保ツニ餘リアリ故
 ニ遇凶年ニ逢ヒ國中ノ財本減却シ雇直大ニ低ルト雖從
 未財本ノ餘計ヲ以テ諸工人ニ普ク雇直ヲ給スルカ故ニ

曾伊餓死ニ至ル者アラス

風俗ノ開ケシ國ト開ケサル國ヲ甲乙ニ船ノ大洋ヲ渉ル

ニ譬フ甲船ハ食料饒カナリ乙船ハ不足ス遇風潮ノ不便

ニヨリテ洋中ニ漂フコ久シ此時甲船ハ稍無益ノ用ヲ節

スルノミ乙船ハ夫食充タス船中ノ者饑渴争鬪疾病死ハ

ヲ免カレス

風俗開ケタル國ニ右ノ外マダ無限ノ利益ト為スヘキハ

諸工人悉ク財本ヲ有ツニ在リ蓋シ之ニ依リテ工人ノ雇

直ト財主ノ利分トヲ併セ得ルカ故ニ富ヲ為スコ常ニ倍

シ人ニ富貴利達ノ良民ト為リ許多ノ子ヲ養フコヲ得テ

其成長ヲ扶ケ勉カラ練リ智識ヲ磨キ德行ヲ修ムルノ道

ニ導クカ故ニ其子モ亦成人ノ後一箇ノ美丈夫トナリテ
國中士君子ノ列ニ就クコヲ得ヘシ

利分

上編利分ノ説今又之ヲ推論ス上編云利分ハ財本ヲ回收
スル時之ニ附スル増量ナリト蓋シ財主自ラ財本ヲ用フ
ルニ於テハ得ル所ノ全利分悉ク其有ニ歸スヘシ然レモ
財主只其財ヲ出スノミニテ其使用ヲ他人ニ托スルニ於
テハ其利分ノ一分ヲ割キ之ヲ托セシ人ニ與ヘサルヘカ
ラス或ハマタ財主其所持ノ財本ヲ他人ニ借與シ借ル所
ノ人ヲシテ自分所持ノ財本同様ニ之ヲ用ヒシムルコト
アリ然ル片ハ利分ノ又一分ヲ其人ニ与ヘサルヘカラス是

レ一ニハ其人ニ損失ノ恐アレハ之ニ報フルナリニハ
其人又其使用ヲ他人ニ托シ自ラ之ヲ監督スルカ故ニ此
監督ノ勞ニ報フルナリ
是故ニ凡ソ利分ワカチテ三項トス監督ノ勞ニ報フル一
ナリ損失ノ恐レニ報フルニナリ財本ニ報フル三ナリ取
後ノ一項ヲ間醇粹ノ利分トイフ然レ共通例ハ之ヲ利息
ト云フ
右ノ説ニヨレハ利足ハ利分ノ一分ナルカ故ニ其高必ス
利分ヨリモ少ナカルヘキニ似タリ然レ凡利息ノ高ニ低
昂アリテ家モ昂カル時ハ利分ハ高ハ上ニ出ル下アリ此
理淺見ノ解シ得サル所ナレ凡塵ニ之ヲ論説スレハ亦人

人ノ解シ得ル所ナリ
蓋シ利息ノ相場ニモ亦市場ト平均ノ別アリ物價ニ市場
平均ノ別アルト等シ夫人一事業ヲナシテ若干ノ利分ヲ
得ルハ其内ヨリ財本ヲ借リ報ヒトシテ一分ヲ財主ニ
與フ是レ即チ利息ナリ其多寡ニ至テハ供給求取ノ勢ニ
從テ定ム假令ハ借ラントスル者何人アリ貸サントスル
者何人アリ又借ラントスル金高何程アリ貸サントスル
金高何程アルヤヲ斟酌シテ其場ニ相當ノ利息ヲ定ム如
此シテ定マタル利息ノ量ヲ名クテ市場利息トイフ
借ラントスル金高ト貸サントスル金高ト相等シタレハ
市場利息下落スヘシ只下落ノ極何程ニ至ルヤ定メカタ

レ借ラントスル金高増シテ貸サントスル金高減スルカ
又ハ舊ク如クナレハ市場利息騰貴スヘシ亦騰貴ノ極何
程ニ至ルヤ定メカタル夫レ利息ノ低昂極限ナリ然ルニ
金ヲ借ル時ノ約定ハカナラス之ヲ踐マサルハカラス
是利息ノ高時トシテハ利分ハ高ハ上ニ出ルニ至ルナリ
平均利息ヲ至テハ極限ヲ定ムルト難カラズ夫金ヲ借ラ
ント欲スル者利息ノ低ヲ撰ムハ論ヲ待タズト雖外ニ更
ニ低キ者ナクレハ已ムトヲ得ズ利分ノ利息白リ大ナル
間ハ何程昂リテモ厭ハサルナリ唯金ヲ借り其金ニテ得
ル所ノ利分寂モ大ナレハ之ヲ借ラントスル者輻湊スル
カ故ニ利息ノ高漸ク昂カリテ利分ノ高ニ相近ツカント

スルナリ
是故ニ利息ハ利分ノ一分ナリトハ平均利息ヲ指シテ云
ナリ市場利息ヲ指シテ云フニ非ス平均利息ノ高ハ必ス
平均利分ヨリ小ナリト知ルヘシ
借貸市ト称スル者アリ俗ニ之ヲ金市トイフ五人ノ業ヲ
起サンカ為ニ金ヲ借ラント欲スル者ノ為ニ極メテ便
リ蓋シ工人大利ニ見込アル者ハ高利ヲ厭ハスレテ大金
ヲ借ラントス教是金ヲ有スル者ハ之ヲ貸シテ以テ其業
ヲ助ケントスルナリ
各國利息ノ相場一様ナラス之ヲ比較スルハ何國ニテ其
家モ昂レルヲ知ルヘシ則亦何國ニテ利分ハ見込家モ大

ナルヲ知ルヘシ
且財本ハ人民ト共ニ人口稠密ハ地ヲ去テ漸ク稀少ハ地
ニ遷ル者ナリ蓋シ財本ハ利息ノ高キ方ニ遷リ人口ハ雇
直ノ高キ方ニ遷ルハ自然ノ道理ナリ膏腴ニシテ地代ナ
キ所ニ至リ財本ヲ巧ニ用フル時ハ利分ノ大ナルヲ言
フ待タハ故是有志ノ徒高利ヲ以テ財主ヲ語テヒ高直ヲ
以テ人口ヲ誘フカ故ニ財本自ラ人口ト俱ニ避遠未開ノ
地ニ遷ルナリ
以上論スル所利分利息ノ理ヲ畧解スル所足レリ其他何
業取モ財主ノ為ニ利ナル欵財主ハ世ノ為ニ何程有益ナ
ル欵財主ノ數多少如何諸業利分異同如何等モ亦究論セ

サレカカラ以テ而シテ之ヲ究論スレハ必ス決テ世語ニ歸
スヘシ曰ク文明全盛ノ國ニ於テハ財本利分總國民中ニ
平均ニテ分散シ少人數大富ニシテ多人數大貧ノ患ナカ
ルヘシ
世人皆才識アリテ作業ニ怠ラサレハ每人必ス從來積ム
所ノ國中財本ノ一分ヲ受ケ有ツテ得ルシ每人之ヲ得
テ更ニ自己ノ勉勵節儉等ヲ加フレハ次第ニ之ヲ増殖ス
ヘシ且養育教導ハ道亦次第ニ備ハルニ至レハ人々性情
嗜好自ラ放恣ナラサルニ至ルヘシ是故ニ富ミテ學識ア
ル者ハ心ノ行クニ任スト雖自ラ事理ヲ謬ラス而シテ富
ハ用只勤儉勉勵ヲ以テ避ケヘカラサル災ヲ避クルハ用

一供スルニ過キサルヲ了解スヘシ
 一同業相助相迫
 富トハ何ソヤ勤勞ニ生セシ物品ノ蓄積ヲ存フ故ニ貯ヘ
 テ平生ノ用ニ供スル所ノ諸物ハ皆富ナリ後來工作ノ為
 ニ費ス所ノ財本モ亦富ナリ
 凡ソ富ノ來ル間斷ナリ數日乃至數月ヲ隔テ、來ル者ア
 リ一年乃至數年ヲ隔テ、來ル者アリ而シテ其前來ヨリ
 後來ニ至ルノ間世人只前來ノ富ヲ以テ平生ノ用ニ供セ
 サルヘカラス是レ各人ノ善ク知ル所細説ヲ要セス
 是故ニ一年乃至數年間凶作ナレハ世人只應ニ前來ノ富
 ヲ節蓄シテ以テ後來ノ富ヲ待ツヘキハ、之ヲ棄テハ亦

他ニ凶災ヲ避クルハ道ナシ
 試ニ思ヘ大洋ニ航シテ食足ラサル欽孤城ニ籠守スル時
 欽山中ノ孤村ニ住シテ大雪ノ為ニ阻テラレタル時ノ景
 況ハ如何ナク善ク是等ノ事情ヲ推シテ廣ク天下ノ理
 勢ヲ察セハ或ハ一國ノ事或ハ万国ノ事亦復々之ニ異ナ
 ラサル者アリ假令ハ二船或ハ數船洋中ニ相逢ハ、互ニ
 欠乏者ヲ相補フヘシニ國或ハ數國ノ世ニ在ル者獨リ
 互ニ欠乏ノ者ヲ相補ハサルノ理アラシヤ各國互ニ欠乏
 ノ者アレハ固ヨリ相補ハサルノ理ナシ只諸國ノ蓄積普
 ク欠乏ノ者ヲ相補フニ足ラサルヲ恨ムヘキナシ
 是故ニ各國現在ノ富强ハ概總民口ト總蓄積ノ比例ニ関

ス而シテ此比例ヲ知レハ各民蓄積ノ平均量ヲ知ルヘシ
 但シ實際ニ就テ之ヲ論スレハ富民ノ蓄積ハ平均量ノ上
 ニ出テ貧民ノ蓄積ハ平均量ノ下ニ在ルヲ論ヲ待タス
 且夫レ富ヲ求ムルノ道現今何程カチ益セリト決シテ現
 今ノ富ヲ益サス蓋シ現今ハ盡カ唯後來ノ富ヲ増スヘシ
 故ニ今人愈智カチ尽シ愈謹儉ヲ加フレハ後人愈富ヲ為
 スヘシ而シテ後來人口次第ニ繁庶スト雖未タ嘗テ窮乏
 ニ至ラサルヘシ
 舊來有ル所ノ富ヲ諸民ニ平分シ且後來ノ富ヲ増殖セシ
 メシニハ同業相結フニ若クハナシ世上ニ會社ヲ結ヒテ
 大利ヲ起ス者枚舉ニ違アラス人ノ善ク知ル所ナルヘシ

次ニ同業相迫ノ事ハ世人ノ往々心附カサル所ナレトモ
 世ニ益アルト亦少ナカラス假令ハ諾ノル東ト北ハ蘭シ及ト厄ト塞トノ
 兩地石炭及ヒ食糧ノ餘裕アリ交易シテ相済ス是レ業ヲ
 通スルノ益ナリ又交易ヲ為スニ當テ獨リ恣ニ高値ヲ貪
 ラントスレハ他人廉價ヲ以テ之ヲ賣ル者アルカ故ニ正
 當ノ利分ノ外安ニ之ヲ貪ルト能ハス是レ即チ相迫ノ益
 ナリ
 方今開化ノ進ムニ從ヒ溝洫輻路造船廠新聞局等種々巨
 大ノ構造ヲ為シ往來運送ヲ便ニスルカ如キハ皆相結ノ
 ノ益ナリ諸會並起リテ各其業ノ盛ナラントテ謀リ敢テ
 度外ノ利ヲ貪ラス貨銀公平ニシテ諸民共ニ其利ヲ被ム

ルカ如キ皆相迫ルノ益ナリ
 概シテ之ヲ論スルニ同業相結ハ製産ヲ進ムルハ第一良
 法タリ同業相迫ハ畜積ヲ平均スルハ第一良法タリ
 工局主船主地主等善ク理財ノ説ニ通シ且善ク新發明新
 改正ノ法ヲ採擇スル者ハ先ツ會社ヲ結ヒ相助ケテ各種
 ノ材料ヲ羅致シ加フルニ才藝ト勉勵トヲ以テ許多ノ物
 貨ヲ製造スレハ利ヲ得ルヲ計ルヘカラス世上ノ人其利
 アルヲ見テ相競テ之ニ倣ヒ亦會社ヲ結ヒ其良法ヲ取り
 其不良ヲ棄テ益其道ヲ研究スルカ故ニ出藍ノ勢却テ初
 ノ會社ニ勝レル利ヲ得ルヲアリ相結ノ利益ヲ見ルヘシ
 工人相迫ノ勢亦相同シ假令ハ一工人一方ノ地ニ居リ一

種ノ奇術ヲ發明スレハ其術忽チ世上ニ貴ハレ利ヲ得ル
 計ルヘカラス故是世上ノ諸工人皆其術ヲ講究シ且其
 地ニ趣キ以テ異常ノ利ヲ謀ル既ニシテ衆工人漸ク其術
 ニ熟シ善ク之ヲ為ス者多キニ至レハ其雇直漸ク下落シ
 衆工人ノ去リシ地ニノ工人減セシニヨリテ其雇直却
 テ騰貴スヘシ
 同業相結相迫ノ功用甚タ大ナリ然レモ卒ニ之ヲ見レハ
 或ハ其効驗ヲ得ス其効驗ハ只市場物價ノ次第ニ下落ス
 ルヲ以テ之ヲ察スヘキノミ
 假令ハ爰ニ粉挽屋アリ一新法ヲ發明シ小費ヲ以テ麵粉
 ヲ造リ市場ニ鬻ク時ハ其所得ノ利分常ニ倍ス是レ其新

發明ノ功ニ報フル天然ノ褒賞ナリ既ニシテ他ノ粉挽屋
 モ亦漸ク之ニ模擬シテ改正スルカ故ニ其法次第ニ流行
 シ或ハ前者ニ優ル者アルニ至リ終ニハ新發明ノ利モ世
 上一統ノ事トナリ詰ル所ハ麵粉ノ價下落シ新發明ノ利
 フ世上一統ニ配分スルニ至ルナリ
 或ハ一新法ヲ發明シテ蒸氣機關ヲ改正スル者アリ其初
 メ人之ヲ模製スル者ナシ或ハ有ルモ亦甚タ少シ故ニ其
 人獨リ之ヲ市場ニ鬻テ利分ヲ得ルヲ算ナシ傍人其利ノ
 大ナルヲ見テ之ヲ羨ミ財本并ニ智識勉勵ヲ盡シテ之ヲ
 模製スルカ故ニ新機關ノ賣物次第ニ増加シ其價次第ニ
 下落シ詰ル所ハ旅客ノ路費次第ニ減少シテ其往來亦一

曾遠速ヲ加フルニ至ルハ
 器械技藝次第ニ發明アリ工人ノ情狀亦大ニ變化アリ
 蓋シ初メ發明アリシ際ハ工人ノ之ニ熟スル者甚タ稀ナ
 ルカ故ニ雇直殊ニ騰貴ス當是時諸工人ハ日々ニ舊業ヲ
 捐テ新法ヲ學ハシト欲シ諸財主ハ日々之ニ熟セル工
 人ヲ得シト欲ス久シクテ後工人既ニ熟シ諸財主既ニ習
 熟セル工人ヲ得ル時ハ是ヨリ其雇直次第ニ下落シ却テ
 其捐ツル所ノ舊業ノ雇直工人ノ減却ニ依テ騰貴スル
 アルニ至ルナリ
 是故ニ相結相迫ノ二事相須クテ用ヲ為ス時ハ其功極メ
 大ナリ第一ニ製造ノ利ヲ増加シ第二ニ其利ヲ世上ニ

公布スルナリ其公布ノ形一様ナラス或ハ地代トナリ或ハ雇直トナリ或ハ利分トナリ到底人口増殖ノ理數ト相合レ相扶ケテ以テ世上人民ハ貧富ヲ平均スルニ至ルヘシ
 勵業ノ人々ハ其力ヲ盡シ其果實ヲ享セ
 世人産業分類極メテ多シ之ヲ大別シテニトス獨カヨカ辨スル者一ナリ衆カ合成ニ非カハハ辨スヘカテサハ者ユナリ
 詩ヲ作り画ヲ描キ病ヲ療レ新器ヲ工夫レ物理ヲ考究ス如キハ所謂獨力能ク辨スル者ナリ術ヲ施スノ際他人ノ手ヲ借ル者アリト雖僅ニ助ケヲ為サシムルニ過キ

不
 轍道ヲ造リ造船廠ヲ建テ水道ヲ穿テ氣燈ヲ措キ蒸氣船ヲ以テ往來貿易レ新聞紙ヲ刷送スルカ如キハ所謂衆力合成ニ非サレハ辨スヘカテサル者ナリ
 右ニ載スル所ハ人力ノ極少ト極多トヲ云ナリ而シテニ極ノ間或ハ少人數ヲ要レ或ハ稍多數ヲ要スル者奉テ計ヲヘカラス
 カヲ合シ業ヲ分ツノ法亦大ニ得失アリテ專ラ本地人民ノ風俗及ヒ智識ト關係ス方今諸國文教日ニ開ケ此法隨テ日々ニ改正ス
 物價ノ下落ハ良法發明ノ明証トスヘシ此理前章論セ

所ナレ共尚妻ニ追論ス蓋シ前日少人數ヲ結ヒテ為ス
 所ノ業後有多人數ヲ結ヒテ為ス時ハ前ニ大費ヲ以テ作
 ル所ノ量後ニハ小費ヲ以テ作り其出賣ノ價他ノ同業ノ
 者ヨリモ低下スルヲ得ヘシ故ニ他ノ同業ノ者已ムル
 ヲ得ス方畧ク変シ相競テ多人數ヲ結フカ否ラザレハ業
 ヲ変スヘシ若シ多人數ヲ結ハス業ヲモ變セ又舊ニ依
 テ大費ヲ以テ之ヲ作レバ價ヲ下スル能ハスニテ來リ買
 フ者ナク業破ルニ至ルヘシ
 世ノ開カ行クハ間斷ナク人ノ新法ヲ勸ムルニ在リ新法
 ニ得テリ失テリ失アル者ハ棄テ、用ヒス只得アル者ヲ
 用ヒ更ニ良法ノ發明アル迄ハ之ヲ棄テス

國中ニ立ツル所ノ律法スヘテ簡易ニシテ業ヲ企ツル者
 金ヲ扱フ者工人ヲ監督スル者ヲシテ十分ニ自在ナラシ
 ハハ十分自在ナレハ是等ノ人損失アルハ已カ拙キヲ
 悟リ所得アルハ已カ巧ナルヲ知ルカ故ニ損得俱ニ業ノ
 勵ミトナル故ナリ
 會社ノ中ニハ職業中ヲスシテ損失ヲ為ス者アリ或ハ颯
 風地震洪水火災等ニヨリテ大損失ヲ為スコアリト雖會
 社一統ニ勉勵智識儉約謹慎ノ境ニナケレハ速ニ之ヲ向
 復スルヲ猶時辰儀ノ發條ノ旋戻スルニ異ナラス
 右ノ理ハ會社ノ利益ノ著大ナル者トス蓋シ會社ノ利唯
 衆人ノ智力ヲ合併シテ能ク成レ難キヲ為スニミナラ

ス亦其損失利得俱ニ會社一統ニテ之ヲ配分レ以テ一統
ノ幸慶ヲ起スニ在リ
古来ノ記録及ヒ經驗ノ說ニ據レハ凡ソ工業ヲ励マスヘ
キ法ハ何様ナルヲ善トスル歟未タ之ヲ決定スルヲ能ハ
ス其故ハ前年適當ノ法既ニ今年ニ適當セサル者アリ今
年適當ノ法亦恐クハ明年ニ適當セサル者アラシ是理ヲ
推セハ目今ハ只目今ノ才能學術ヲ以テ目今應用ノ財本
及ヒ工人ヲ較計シ以テ目今相當ノ法ヲ立ツヘシ如此ノ
立ツル所ノ法愈宜ヲ得レハ所得ノ利息多シ最初ニ市
場ノ價適カニ財本ノ上ニ出ツルハ立法者ニ帰スルノ利
ナリ寂後ニ廉價ノ品物ノ夥多ナルニ至ルハ世上一統ニ

歸スルノ利ナリ

貧窮

世上貧窮ニ苦ム者勝テ算フヘカラス若シ此苦ヲ免カレ
ント欲セハ須ラク人生相資クルノ道ヲ守ルヘシ之ヲ棄
テ、他ノ良法ナシ此書中反復論辯シテ煩ヲ厭ハサル由
縁ナリ

其國氣候穩カナラズ地質磽确ナレハ其民自ラ無智懶惰
ニシテ短見ナルヲ常トス如此民ヲ富スノ道只其無智ヲ
化シテ智トシ懶惰ヲ化シテ勉勵トシ短見ヲ化シテ深慮
ニ至ラシムヘキノミ
民ノ貧乏其風俗ノ宜シカラサルニヨラハ之ヲ富マスノ

道一朝一夕ニ辨スヘキニ非ス必ス世移リ民渝リ陋習ヲ
一洗スルニ非サレハ能ハス蓋シ陋習未タ一洗セステ
其民富強ニ至ル者ハ未タ嘗テ之レ有ラサルナリ或ハ民
ノ窮乏ニ時ノ失措ニヨル故或ハ不虞ノ災變ニ依ル時ハ
只勉勵節儉シテ以テ危急ヲ免カルヘキノ良是レ實ニ憐
ムヘキノナレト亦是ヲ棄テ、他ノ良策ナシ之ヲ要スル
ニ窮乏ノ民善ク既往ノ非ヲ悟リ將來ノ益ヲ謀リ艱難辛
苦ノ間ニ居テ志ヲ屈セス後輩ヲ教養スルニ其法ヲ得且
之カ為ニカヲ尽シテ怠ラサル時ハ久シカラステ富強
歡樂ノ時アルヘシ

カラス而シテ其法ハ仁惠ヲ施スニ外ナラス蓋シ民ノ能
ク自立スル者ハ之ヲ保護シ其自立スルヲ能ハサル者ハ
之ヲ救援スルハ人生公同ノ要務ナリ然レト之ヲ救フニ
當テ忘却スヘカラサルノ一事アリ即チ貧人ニ施與スル
所ハ者ハ他人ハ勉勵節儉シテ畜積スル所ヲ借リタル者
ナルトヲ知ルヘキノナリ、仁惠ノ道ノ流行スルハ其國盛昌ノ基ナルコトハ今復タ細
論ニ及ハス只爰ニ注意スヘキハ凡ソ人ノ貧窮ニ赴ク者
ハ為スヘキノアリテ為サス止ムヘキノアリテ止メサル
ノ過ヨリ生スル者ナレハ之ヲ救フニ當テ再ヒ其過ヲ為
サハラシムルハ方便ナカルヘカラス

仁惠ヲ施スニ當テ右ノ道理ヲ辨ヘサレハ益其過ヲ養ヒ
 之儉救ハント欲レテ却テ之ヲ陷ルニ至ランノミ且他
 人ニ勉勵節儉ノカヲ借リテ之ヲ救フコトナレハ仁惠ヲ施
 サント欲レテ却テ一方ハ恨ヲ取ルコトハハ再ニ熱慮
 レテ恨ヲ取ルニ至ルヘカラス
 且夫レ救助ノ道ハ有能ノ人ニ取リテ無能ノ人ニ與フル
 ナレハ可成丈多カラサルヲ善トス其人若シ全ク無能ナ
 ルニ非サレハ只其一時ノ窮ヲ救ヒ之ヲ資トシテ直ニ本
 業ニ就カシムヘシ或ハ時宜ニヨレハ養育若クハ訓導ヲ
 為シテ後來成立ノ方畧ヲ指示スヘシ
 之ヲ總論スルニ凡ソ貧窮ヲ救フノ良法ハ工業ヲ励マシ

富ヲ分配スルニ若クハナシニ工業ヲ励マセハ物品饒足レ
 富ノ分配スレハ民産平均ス如此レテ國ニ貧民アル者ハ
 イマタ之レアラサルナリ

外國交易

外國交易ハ分業ノ法ヲ世界萬國ニ推シ廣ムルノ謂ナリ
 財本及ヒ工人ヲ使用スルカ為ニ立ツル所ノ法則ノ主意
 ハ可成丈少シノ費ヲ以テ可成丈多クノ物品ヲ製造スル
 ニアリ故ニ若シ少費ヲ以テ多物ヲ造ルヘキ法ヲ發明ス
 ル者アレハ饒ヒ一時ナリト雖必ス其人ニ格外ノ利益ア
 ルヘシ上古ノ時初メテ法ヲ立ツルノ人只其一斑ヲ得ル
 ノミ未タ其道ヲ益スコト能ハス故ニ其得ル所ノ利分モ亦

只此ノ同業ノ者ニ比スレハ稍少許ノ費用ヲ以テ稍多量
ノ物品ヲ製造スルニ過キス後世ニ至ルニ及ンテ財本及
ヒ工人ヲ使用シテ利分ヲ謀ルノ法ヲ發明スルヲ甚々多
シ而シテ外國交易ノ法モ亦其一ニ居レリ
市場ニ在ル所ノ諸物ノ平均價ハ必ス其工費ニ準スルヲ
上篇既ニ之ヲ詳述ス
外國交易モ亦物ヲ生スルノ法ナリ而シテ其費製作ノ費
ヨリモ少許ナレハ其平均價モ亦之ニ準シテ減スヘシ且
物價下落スレハ財本及ヒ工人ヲ使用スルノ道宜ヲ得ル
ヲ証スヘシ此理亦前ニ既ニ論ス今外國交易ニヨリテ物
價下落ス故ニ外國交易ハ財本及ヒ工人ヲ使用スルハ良

法ナルヲ証スヘシ
既ニ外國ト交易スレハ物價ハ昂低全世界ハ物情ニ關係
ス此理亦悟リ難カラス
物品同一ナリト雖常ニ輸入スル地ニ在テハ其平均價必
ス高ク常ニ輸出スル地ニ在テハ必ス低シ而シテ低昂ハ
差ハ必ス両地間運送ノ費ニ等シ但シ市場價ニ至テハ一
時供給求取ノ勢ニヨリテ右ノ法則ニ合セサル者アリ亦
學者ノ既ニ知ル所ナルヘシ
若シ諸物ノ市場價一時ニ騰貴シ常輸入品ノ價運送費ノ
加ハリシ比例ヨリモ尠カニ騰貴シ且常輸出品ノ價モ亦
騰貴シテ輸出スヘカラサルニ至ルノアリ如此時ハ宜シ

ク貨幣若クハ幣材ヲ輸出スヘシ然ル時ハ貨幣減スルカ
 故ニ物價自ラ下落レ諸國ノ物價ト相當ノ比例ヲ為スニ
 至ルヘシ
 若シ諸物ノ市場價一時下落シ常輸入品ノ價運送費ニ充
 ツルニ足ラス且常輸出品ノ價ハ大ニ下落シテ競テ輸出
 セントスルコトアリ如此時ハ宜シク貨幣若クハ幣材ヲ輸
 入スヘシ然ル時ハ貨幣増加スルカ故ニ物價自ラ騰貴シ
 諸國ノ物價ト相當ノ比例ヲ為スニ至ルヘシ
 專ラ金銀ヲ産スル國ニテハ諸物ノ價常ニ高シ諸物ハ常
 ニ輸入シ貨幣及ヒ幣材ハ常ニ輸出スルカ故アリ
 諸國物産互ニ相異ナリ是ヲ以テ有無交易往來已マス其

相異ナル由縁大抵氣候若クハ地質ノ別ナルニヨリ或ハ
 礦山ノ貧富ニヨル然レ其相異ハ家モ著シキハ國ハ新
 古ヨリ甚シキハナシ蓋シ新國ハ地産得易クシテ工産得
 難ク古國ハ之ニ反ス是ヲ以テ英米兩國ノ交易ノ如キ英
 貨ハ工産多ク米貨ハ地産多シ英國ト澳大利ノ交易ノ如
 キハ英貨ハ全ク工産ニ限リ澳貨ハ全ク地産ニ限レリ假
 令ハ澳大利ノ地羊毛ヲ産ス英商之ヲ買テ本國ニ至リ之
 ヲ以テ毛衣ヲ製シ再ヒ載テ澳大利ニ到レハ澳人買テ之
 ヲ販ヌ然レ其利却テ自織テ衣ヲ造ルニ優ルトイフ
 自在交易制限交易
 風俗ノ漸ク開化シテ以テ今日ノ成ニ至ル由縁ノ者ハ主

トシテ三事ノ行ハル、ニ依ル所謂三事ハ何ゾヤ曰ク各人自修一ナリ學識上達ニナリ許多ノ財本ヲ集合ス三ナリ三事既ニ行ハルレハ業ヲ分テ物ヲ集メ交易ヲ通シ金幣及ヒ紙幣ヲ用フル等各般便利ノ事之ヨリ生ス律法ハ國中人心ノ定マル所ヲ示ス者ナリ國中人心常ニ便利ノ事ヲ好ム故ニ律法中常ニ右三事ヲ助ケ長スルヲ主トス其畧ヲ挙クレハ或ハ國人ヲ導キ其ヲシテ業ヲ勵ミ行ヲ脩メ學藝ヲ研究セシメ或ハ國人ノ謹儉辛勞シテ積ム所ノ財産ヲ守護シ國內ノ劫盜及ヒ外國ノ來攻ニ侵掠ヒラハハ患ナカラシム或ハ金幣紙幣等ニ印証ヲ與ヘテ威權ヲ附シ或ハ衙門ヲ置キ詞訟ノ事アレハ寂速取少費ヲ

以テ判決スヘカラシムルナリ
 右ニ載スル所ハ皆民力ヲ助ケテ發達セシムル所以ナリ
 試ニ問フ律法ノ用此ニ盡ルヤ曰ク若シ此ニ盡キハ万国
 交易十分自在ナルヘシ又問フ此ニ益キサレハ果シテ何
 所ニアルヤ曰ク近世進々税法ヲ立テ外國人ノ競進ヲ抑
 ハ國內ノ工作ヲ守衛スル者アリ是レ正明確定セル者ニ
 アラスト雖亦律法ノ一端トスヘシ請フ其畧ヲ述ヘン
 國人ノ産業ヲ守護シ國內ノ劫盜及ヒ外國ノ來攻ニ侵掠
 セラル、ノ患ナカラシムルハ律法ノ眼目ナルヲ右ニ既
 ニ之ヲ舉ケタリ今マタ其意ヲ詳ニスレハ凡ソ國內工人
 ノ製造スル所ノ者ハ他人強テ之ヲ取去ルヲ得ス之ヲ

取ラント欲セハ只其工人ノ家モ欲スル所ノ者ヲ以テ之
ヲ交易スヘシトナリ然ルニ彼外國人ノ競迫ヲ抑ヘテ國
内ノ工作ヲ守護スルカ如キハ大ニ之ニ異ナリ是只外國
ヨリ輸入セル材料ヲ以テ諸物ヲ製造スル下ヲ禁スルニ
異ナラス凡ソ國內ノ工作ニ二道アリ一ハ外國交易ノ助
ニ依リ一ハ外國交易ノ助ニ依ラス其助ニ依ラサル者家
モ工人ニ利分アレハ之ヲ國益トシ律法ノ沙汰ニ及ハサ
ルハ當然ノ理トイフヘシ若シ外國交易ノ助ニ依ル者家
モ工人ニ利分アレハ之ヲ國損トシ律法ヲ設ケテ之ヲ抑
制スルハ何ゾヤ如此律法ヲ以テ國內工人ヲ守護スルノ
法トス孰レカ疑惑ヲ生セサランヤ

如此ク可疑守護ノ法ヲ主張スル者ハ必スイハン此法ハ
敢テ工人ノ隨意ニ物ヲ造リ隨意ニ外國ニ送ルヲ妨クル
ニ非ス只國內ニ産スル者ハ競ヒ價貴シト雖之ヲ用ヒ外
國産ノ來入ヲ妨クヘシト是レ亦一ヲ知テニヲ知ラサル
ノ論ナリ夫レ交易ノ利ハ取ルニ在リヲ與フルニ非ス輸
入ニ在テ輸出ニ非ス輸出愈少ナクレハ交易ノ利愈多シ
輸出愈多クレハ交易ノ利愈少シ一定ノ理ナリ然ルニ彼
輩之ヲ知ラス輸入品ノ廉價ヲ害トシ稅ヲ加ヘテ之ヲ妨
ケントスルハ大ナル惑ナリ抑物品輸入ニ付全成満足ノ
姿ハ其價ノ貴キニ非ス賤キニ非スシテ全ク無價ニ至ル
ニ在リ是レ吾人ノ常ニ願望シテ可成ハ成サントスル所

ナリ

南威爾士ニ於テハ百凡需用ノ物皆鉄ヲ以テ之ニ換ヘ諾
 東北蘭ニ於テハ石炭ヲ以テ換ヘ曼識特比名罕哥拉斯哥
 敦底等ニテハ工造品ヲ以テ換フ皆其所育ヲ以テ所無ニ
 換フルナリ蓋レ世上流行日ヲ追テ變シ且ツ交易ノ道甚
 タ廣博ナルカ故ニ我供給スル所ノ物稍其赴ヲ變スレハ
 必ス能ク吾軍モ所欲ノ諸物ニ換フル事ヲ得ヘシ世事既
 ニ如此法律ナケレハ人將ニ財本ト工作トヲ盡シテカハ
 所及ハ所欲ノ物ヲ求ムヘシ若シ法律アレハ何程財本及
 ヒ作カフリト雖自在ニ所欲ノ物ヲ求ムルコトヲ得ス事ノ
 得失豈判然タラスヤ

是故ニ法律ヲ立テ國內ノ工業ヲ守護スル時ハ只國內ノ
 劫盜及ヒ外國ノ來攻ニ備フルヲ措シテイフヘシ税法ヲ
 立テ外國ノ競迫ヲ抑フルカ如キハ直ニ是レ制限ナリ之
 ヲ守護ト稱スヘカラス
 或人云我國ハ制限交易ノ法ニ非サレハ富ヲ致スヘカラ
 ス自在交易ノ法行フヘカラスト若シ此說ヲ信シテ理アリ
 トセハ他國亦此說ヲ為ス者アラン世界万国皆此說ヲ為
 スニ至ラハ大ニ公同ノ利益ニ背キ交易ノ本意ヲ失フニ
 至ルヘシ論シテ此ニ至ラハ知識アル者ハ必スイハ自
 在交易ノ法ニ非カレハ特ニ文教ヲ闡明シ四海兄弟ノ親
 ヲ為シカタクハミナラス所謂富國ノ道ニ於テモ亦矛盾

スル所アリト

器械

人間智識ノ愈長レ愈廣マルニ隨テ次第ニ需用ノ物品ヲ製造シ且ツ之ヲ集聚スルノ力ヲ逞フスルカ故ニ人口益増殖スト雖イマダ嘗テ其用ヲ缺クニ至ラス上古ノ時所用ノ器械ハ耒耜ノ類ニ過キス當時人口猶未々多カラス其思慮モマダ唯粗衣粗食ヲ計ルニ過キス鋤鋤黎藿水車風車ノ属ヲ創造シテヨリ以來食料稍餘裕アリ於是紡績組織築造鑿礦等ノ業起ル蒸氣機關ノ創製以來ハ工職ノ道更ニ大ニ進レ所得ノ利亦大ニ多シ乃チ亦海陸ヲ縱横ニ涉リテ以テ新ニ需用品物ヲ相載セント謀ル者アリ建

造家製器家ノ徒ハ橋梁ヲ架シ蒸氣車蒸氣船ヲ造リ人民益富ミ世事益優ニシテ或ハ物理ヲ講究シ新奇ヲ發明スル者アリ或ハ書ヲ著シ生徒ヲ教導スル者アリ或ハ鉛字ヲ鑄或ハ書籍ヲ印刷スル等ノ業次第ニ榮ヘ皆相資ケテ世用ニ供レ以テ今日ノ盛ニ至ルナリ古今ノ史書ヲ閱スルニ技藝ノ变革モ亦頗ル容易ナラス大抵一新法ヲ創造アル毎ニ衆人多ク之ヲ憎ミ甚シキニ至テハ仇敵ヲ以テ之ヲ視ル者アリ蓋一新法ノ生スル毎ニ一舊法廢止レ之ニ属スル者多人數一時業ヲ失フカ故ナリ假令ハ橋ヲ架レハ渡船廢シ蒸氣織機出ツレハ手織機廢レ鐵道成ツテ官道衰ヘ蒸氣船行ハレテ帆船衰フル

カ如キ其興廢ノ毎度ニ未タ嘗テ難事ノ生セサル者アラ
 ス其説云器械ハ雇直ヲ騰貴シ工業ヲ支障シ貧窮ヲ長ス
 スルノ基本ナリト甚タ疑フヘレ世上實ニ器械ト貧人ト
 両立ス然レトモ之ニ依テ貧人ハ器械ヨリ生ストイフヘ
 キヤ器械ナキノ時果シテ貧人ナカリシヤ夫レ器械ハ大
 地ノ發生カヲ扶クル者ナリ故ニ一器ノ創造ハ毎ニ必
 ス一層ノ發生カヲ加フヘレ器械次第ニ開クヘハ世上品
 物愈増加シ愈廉價ニ趨クヘキハ假令ハ飲食衣服薪炭
 運送教育等ノ事ノ如キ器械ナクハ僅ニ一人ノ用ニ供
 スルニ過キサル者器械アレハ以テ千人ノ用ニ供スヘレ
 安ク彼説ノ如ク世ノ弊害ヲ生スルノ理アラシヤ

凡ソ器械ノ創造ハ必ず之時ノ危難ヲシテ而シテ亦其
 危難ノ前兆ヲ以テ蓋シ創造シ器ヲ以テハ工作ノ費減スルカ
 故ニ其價下落シ多人数皆喜シテ之ニ趨キ少人数以舊器
 ヲ用クル者獨廢業ノ危難ヲシテ而シテ知此價ノ下落スル
 ハ少人数危難ノ前兆ナリ是ヲ以テ才識アル民ハ新ク
 時変ニ通シ家モ善ク此前兆ヲ察シ新器ノ創造ヲ由リテ
 利害ノ生スル所アレハ速ニ方器ヲ轉シテ利ヲ得ルハ黨
 ニ與ヒ損害ヲ受クルニ至ラス之ニ及レテ才識ノキ者
 ハ時変ヲ知ラス新器ノ出ツル毎ニ一時少許ノ損害アル
 運厭ヒ強テ之ヲ廢セント是レ筆耕利ノ為ニ印刷法
 ヲ廢セトトセント同日ノ談ニテ大ナル惑トイフヘレ夫

レ新發明ノ利ハ公共ナリ不朽ナリ其損害ハ一時一分ニ過キス況ヤ歴ニ智畧ヲ用フレハ之ヲ避クルノ術アリ

拓土移民

人民智識漸ク開タルニ及テ至要至重ノ業ヲ企ツル者甚々多シ土ヲ拓キ民ヲ移スノ業亦其一ナリ其来由ヲ釋スニ開闢既ニ久レキ國ニ於テハ風俗漸ク危峻ニ赴キ且衣食ノ料漸ク足ラス假令ハ麦粉ヲ挽キ麵包ヲ製シ絲ヲ紡シ機ヲ織ルカ如キ愈久シクテ愈盛ナレハ麵包ヲ製スルニ麵粉益キ麵粉ヲ挽クニ麦益キ絲ヲ紡シ機ヲ織ルニ羊毛苧麻ノ類益クルニ至ルナリ是等ノ緣故ニ依リ

テ人民次第ニ自國ヲ厭スハ情ヲ萌レ或ハ衣食ヲ求メ或ハ國乱ヲ避テ相俱ニ他邦荒漠ノ地ニ涉リ之ヲ開墾シテ耕作セリ

風俗既ニ開ケレ國ヨリ衆民相結ンテ新地ヲ開墾セシ者所得ノ利殆ト測ルヘカラス是レ其人既ニ學藝ヲ備ヘ以テ肥沃ノ地ヲ耕スカ故ナリ從是開土移民者一日ハ一日ヨリ多シ衣食既ニ裕カナレハ之ヲ載セテ本國ニ送り本國有餘ノ製造品ニ交易シ彼此ノ利擧テ言フヘカラスルニ至レリ是ヲ以テ移民ノ數ノ増加スルハ獨リ新地繁昌ノ為ノミナラス本國モ亦衣食充足民口増殖ノ源トナレリ

移住ノ民ヲ本國ヨリ愛護スルヲ甚ク厚シ是ニ依リテ新
 地ノ民口次第ニ増殖シ疆ヲ開キ物料ヲ生スルヲ増夥多
 ナルカ故ニ勢亦隨テ強ク終ニハ本國ノ守護及ヒ司令ヲ
 煩ハサスレテ善ク獨立スヘキ氣カヲ生スルニ至レリ其
 始新地ノ本國ニ於ケルハ猶子ノ親ニ於ケルカ如クナリ
 シカ後ニハ並列レテ相統屬セス只友誼ヲ以テ親密ナル
 交ヲ結フニ至レリ夫レ民ヲ移シテ之ヲ守護シ且撫育ス
 ルハ有徳ノ事業ニシテ天下ノ美事ナリ之ニ相當セル報
 酬ナカルヘカラス寂初巨大ノ利分ヲ得レハ其報酬ニ當
 ツヘケレモ未タ以テ十分ノ報ト為スヘカラス之ヲ小兒
 ヲ養育スルニ譬フルニ其幼少ノ間左右ニ侍ヒ司令ニ應

スルカ如キハ未タ以テ養育ノ報ト為スニ足ラス年既ニ
 十分生長シ心身俱ニ善ク自立シ緩急相援ケ疑事相議ス
 ルノ時ニ至リ始メテ其用ヲ得タリトイフ新地ノ本國ニ
 於ケルモ亦此ノ如ク善ク獨立自主シテ廣ク貿易シ有無
 相通スルノ時ニ至リ始メテ功勞ノ全報ヲ得ルトイフヘ
 レ
 租税
 凡ノ人間生業ノ事ハ次序正レク時ニ應シテカヲ用ヒヤ
 ルヘカラス而シテ善ク如此ナラズレバ内盜外寇ノ備ヘ
 ヲ為シ且爭論ヨリ動モスレハ暴行ヲ生スルカ故ニ速ニ
 爭論ヲ糾勒スルハ法オカルヘカラス備此趣意ヲ達セン

カ為ニ一種ノ制度ヲ設ケ民カノ一分ヲ割テ内盜外寇ヲ
防禦スヘキカヲ興レ且ク衙門ニ所ヲ設ケ國民ヲ致志
意ヲ守持シ國民ヲ尊敬服従シテ敢テ抵吾スルコト勿
カラシムルハ其ノ第一ノ要也
國中ノ人禮義ヲ重シ法律ヲ畏レサルヘカラス且総ヘ
テ智識未タ開ケス道德未タ修マラス見聞未タ廣カラス
夷狄ノ俗殘ル所アリ法制宜シカラス目的汚辱惑フ所ア
リハ是レ才徳備ハレテ人ノ任ナリ宜ク不撓不屈ノカヲ
以テ日夜黽勉シテ暗昧ヲ照ラレ群疑ヲ決シ萬民ノ耳目
ヲ一洗スヘシ此任家モ重要ニシテ是レ無ナケレバ禮義
法律ノリト雖世ニ行ハルコト得サルナリ

凡ソ是數ノ者皆國中欠クヘカラスル要件ニシテ速ニ之
ヲ設立サルヘカラス之カ為ニ須要ナル俸祿費用ハ宜シ
ク國ノ富積ノ分量ヲ貯藏スル者ヲシテ之ヲ納ムルハ
シ乃チマタ之ヲ納ムルニ一定ノ法律ナカルヘカラス國
民一定ノ法律ニ從ヒ其貯藏ノ一分ヲ納ムルヲ名ケテ國
ノ租税トイフ
國事ニ須要ナル租税ヲ納ムルノ法數端アリテ利害々々
之ニ係ル差ニ其大畧ヲ掲クヘシ
其一租税ヲ國中ニ分配スルニ當テ偏重偏輕ノ差アルハ
カラス一地若クハ一部ノ民ヲシテ全國ノ用ニ供スヘキ
租税ヲ出サシムヘカラス又全國ヨリ出ス所ノ租税ヲ一

地若クハ一部ノ用ニ費スヘカラス其他マタ租税ヲ催ス
ニ當テ出ス所ノ民ノ貧富ヲ斟酌セサルヘカラス
其二催ス所ノ税ハ公庫ニ收入スルヲ要ス公庫ニ收入ス
ヘキ者ニ非サレハ可成丈之ヲ催スヘカラス
其三租税ヲ催促スルニ當テ之カ為ニ産業ニ好タルハ
置アラシムヘカラス

直税

相税ヲ納ムルニ法アリ一ヲ直税トイヒ二間税トイ
フ直税再ヒ分テ數項トス其目左ノ如シ
其一ヲ口税トス每人若干ノ税ヲ出スナリ此法貧富ニ花
ハラス家モ不正ナリ宜ク速ニ之ヲ廢止スヘシ

其二ヲ物税トス每人貯藏ノ品物アレハ其多寡ニ準シテ
税ヲ出スナリ其法頗ル正理ニ合ス但シ貧家僅少ノ物ヨ
リ税ヲ收ムルヲ酷ニ堪ヘス或ハ云之ヲ避ケント欲セハ
宜シク速昇法ヲ用ユヘシ其法家貧人ヲ除キ其餘物品ノ
多寡ノ昇ルニ從ヒ之ニ準レテ租税ノ等級モ亦昇ルナリ
假令ハ所有ノ物品ヨリ生スル所ノ利百磅以下ハ税ヲ納
メス百磅ヨリ二百磅ニ至レル者ハ十司令ヲ收メ二百磅
ヨリ三百磅ニ至ル者ハ二十司令ヲ收メ以上此ノ如ク百
磅ヲ増ス毎ニ十司令ノ税ヲ加フルナリト此法頗ル穩當
ナルニ似タリト雖未タ實驗ヲ經サレハ其得失果シテ如
何ナルヤ之ニ踰ユル良法アリヤ無シヤ我未タ之ヲ詳ニ

スルヲ得ス只此法ニ從ハハ富人ハ政ヲ助クルカ為ニ
カヲ費ス一多ク且ツ同一ノ政ナレヒ貧人ハ少費ヲ以テ
之ヲ受クヘシ世人皆此理ヲ洞知スルカ故ニ富人ハ權勢
自ヲ強盛ニ至ルトハ之レ亦止ムヲ得サルノ一事
ナリ

其三ヲ利分ノ税トス一年中工作ヲ以テ得ル所ノ利或ハ
物ヲ貸シテ取ル所ノ利息ヨリ收ムル税ナリ此法善ク流
弊ヲ除去レハ亦正理ニ背カストスヘシ但シ工作ノ利ハ
工人ノ健羸存没ニ関シ所有品物ノ利ハ之ニ関セス税ヲ
掌ル者善ク此差別ヲ知ラサルヘカラス世ノ輕薄者ヲシ
テ評セシメハ從來税官大抵此差別ヲ知テス只其蓄積ノ

多寡ヲ見テ理ノ當否ヲ問ハストイハシ
其四ヲ死者遺物ノ租トス此法ヲ以テ公務ノ費ヲ辨ス亦
害アラストス或云人死シテ遺物其子孫若クハ生前縁故
アル人ニ歸スルハ正理ナリ之ニ租税ヲ加フヘカラスト
若シ此説ヲ推廣メハ復々政事ノ費ヲ取ルヘキノ法ノキ
ニ至ルヘシ特ニ遺物ノ税ノミニ非サルナリ又云當今文
教盛明ノ時ナリ然ルニ死者ノ遺物ニ租アリテ富家ノ財
産ニ租税ヲ免カル者アルハ何ゾヤ曰ク是レ實ニ通弊
ナリ現ニ英國ノ如キ人死シテ子孫若クハ縁故アル人ニ
歸スルキ遺物アレハ微少ト雖峻法ヲ以テ税ヲ徵シ豪富
ノ土田ニ至テハ子孫相傳ハ言ニ及ハス縁故ナキ者ニ歸

スト雖稅ヲ徵スルコトナシ甚哉

間稅

凡俗ノ情財ヲ出シテ國用ヲ扶クルコトヲ欲セス風俗未開ノ世ニ於テハ此情殊ニ甚シ是ニ於テ法ヲ設ケテ此情ヲ避ク是レ即チ輸入稅及ヒ製造稅ナリ輸入稅ハ外國ヨリ輸入セル貨物ヨリ納ムル稅ナリ製造稅ハ國中ニ生スル所ノ貨物ヨリ納ムル稅ナリ貨物ヨリ租稅ヲ納ムレハ其價必ス騰貴ス此理甚タ明瞭細論ヲ待タス前去市場ノ物價ハ供給求取ノ勢ニ由リ一時低昂際限ナシ只其平均價ハ製造ノ費用ニ準レ一定シテ動カズト此理亦既ニ了解スヘシ叔假令ハ爰ニ一種ノ

貨物アリ其平均價ハ正レク其造費ニ準ス若シ其工人若クハ輸入人ヲレテ租稅ヲ納ムル時ハ其市場ニ當ク價モ亦之ニ準レテ騰貴スヘキ理ナリ但シ市場價ハ時ニ從テ定マラサルカ故ニ或ハ騰貴シ或ハ騰貴セサルコトアリ其騰貴スル者ハ固ヨリ論ナシ若シ騰貴セサル時ハ租稅ノ量全ク工人若クハ輸入人ノ損失トナルニ似タリ然レモ工人若クハ輸入人如此損失アルヲ以テ所得ノ利分足ラストセハ復タ此貨物ヲ製造セス若クハ輸入セサルカ故ニ市場ニ所有ノ此貨物ノ數漸ク減少シ其價隨テ騰貴シ終ニハ工人若クハ輸入人ヲレテ損失スル所ナカラレムルニ至ルヘシ善ク此理ニ透徹スル時ハ則チ製造物

及七輸入物ノ租税ハ工人及ヒ輸入人ノ害ト被ラザルヲ
ヲ察知スヘシ
貨物ノ税ヲ名ケテ間税ト称スル所以ヲ尋ヌルニ之ヲ製
造シ若クハ輸入スル者現ニ金ヲ納ムト雖其實ハ税ヲ納
ハス其貨物ヲ受用スル者ハ騰貴セル價ヲ以テ之ヲ買カ
故ニ現ニ金ヲ納ムスト雖其實ハ税ヲ納ム受用スル者實
ニ税ヲ納ムレハ工人或ハ輸入人間ニ居テ其金ヲ納ムル
カ故ニ之ヲ名ケテ間税トイフナリ假令ヘハ或人茶一斤
ヲ買ヒ其代四十二錢ヲ拂ヘハ茶商其中ヨリ二十二錢ノ
税ヲ收ムルヲアリ然ル時ハ現ニ税ヲ拂フト雖其實ハ買
ヒシ人ノ拂ヘルナリ故ニ茶一斤ヲ二十錢ニテ買ヒ茶商

店ヲ出ラントスル時税吏来リテ二十二錢ノ税ヲ取立
テシ異ナラス
輸入ノ貨物國中ニモ亦之ヲ産スル者アリ如此貨物ノ輸
入税ハモテ取リテ國産ノ税ヲ取ラサレハ其害甚々多シ
先ツ第一ニ國庫ニ入ルヘキ税金ノ數少ク且輸入ノ税ノ
ミニテモ之ヲ取レハ其價騰貴ス而シテ其騰貴ノ度ハ輸
入國産俱ニ税ヲ取レル時ニ騰貴スル度ニ異ナラス是ヲ
以テ國産ノ價過分ニ騰貴スルカ故ニ財主雇工俱ニ他事
ヲ棄テ之ニ趨キ租税ナクシテ外國交易ノ為ニ廉價ニナ
ルヘキ物品ヲ多ク費テ厭ハスシテ勉テ之ヲ作ルニ至ル
ヘシ

假令ハ炭ニ二百万石ノ麦ヲ買フ者アリ其内百八十万石
 ハ國中ニ産シ二十万石ハ外國ヨリ輸入ス今一石ニ付一
 匁ノ割合ヲ以テ總高ヨリ税ヲ納ムレハ税銀ノ高二百万
 匁ナリ然ル時ハ右税銀ノ故ニヨリテ麦ノ價國中一様ニ
 騰貴スルカ故ニ財主雇工ノ為ニモマタ損害ヲ生スルコ
 ノチス然ルニ若シ輸入ノ税ノミヲ取リテ國産ノ税ヲ取
 テサレハ國中ノ麦作ニ分外ノ利分アリ於是財主雇工俱
 ニ競チ麦ヲ作ルカ故ニ國産ノ高ハ増レテ百九十万石ニ
 至リ輸入ノ高ハ減シテ十萬石ニ至ルヘレ而レテ此十萬
 石ノ税ノミヲ取レハ税銀ノ高純ニ十萬匁ニ過キサルナリ
 輸入ノ税ノミヲ取リテ國産ノ税ヲ取ラサメノ害右ノ外

更ニ甚タシキ者アリ前ニモイヘル如ク價ノ騰貴ハ輸入
 ノ税ノ高ニテモ兩税俱ニテモ相異アルコトナシ然ルニ税
 銀ノ高ハ兩税ナレハ二百万匁ナルヲ輸入ノ税ニスレハ
 十萬匁ニ過キス既ニ百九十万匁ノ不足アレハ勢止他物
 ノ税ヲ増シテ之ヲ補ハサルハカラス始ニ税法ノ宜シキ
 ヲ得サルニヨリ次ニ財主雇工ノ誤リテ力ヲ益スニヨリ
 終ニハ國民一統ノ損害ノ生スルニ至ルナリ
 又輸入ノミニシテ國産ナキ者假令ハ珈琲ノ英國ニ於テ
 ルカ如キ者ヨリ税ヲ納ムルニハ不同ノ事アルハカラス
 若シ一方ノ税ヲ高クシ一方ヲ低クスレハ低キ者ハ其價
 モ亦低キカ故ニ世上之ヲ求ムル者益多カルヘシ然ルニ

其全量少ナクシテ世上ノ求メニ應スルニ足ラサハ速
ニ騰貴シ先ノ高税ナル者ト價ヲ同フスルニ至ルハ必然
ナリ是ニ於テ之ヲ用フル者ハ高價ニテ買フカ故ニ悉ク
税ヲ出サ、ルハナシト雖國庫ニ納マレ税額ハ總ニ其幾
分ニ過キサルナリ
若シ人世上流行ノ税法ニ熟セス且種々ノ姦情ヲ發スル
ニ慣レサルカ如キハ平生姦人ノ侮ヲ招キ損害ヲ受ケ自
己ノ力次第ニ減縮シ發達ノ途次第ニ梗塞スル雖モ之
ヲ覺知セス之レ實ニ憐ムヘキ者ト雖元來ハ税法ヲ識セ
サルノ過ヨリ出ツルナリ
間税ノ法ハ公正ニシテ誤ナキヲ信スヘシト雖猶且別種

ノ弊害ノ竄入スル者少ナララス税金ノ高ノ大ナル時ハ
此弊殊ニ甚クシ故ニ輸入及ヒ國産ノ税アレハ之ニ隨テ
亦大ニ交易及ヒ製造ノ業ヲ妨クル者アリ夫ノ姦商等常
ニ海岸ニ徘徊シテ密賣ヲ謀ル者幾何アルヲ知ラス之ヲ
制止センカ為ニ巨大ノ費ヲ厭ハスレテ嚴重ノ兵備ヲ為
サ、ルヘカラス加之戦争死傷等ノ事屢起リ或ハ人ヲ囚
ヘテ非道ノ處置ヲ為スヲアリ或ハ姦商等志ヲ得テ公正
ノ商人ヲ壓倒スルヲアリテ其害殆ト言ヒ盡スヘカラサ
ルニ至ル
方今間税ノ法大ニ變革セリト雖其改ムヘキ者尚多シ左
ニ其一ニヲ掲論ス紙類新聞紙等ハ税ハ智識開達ノ税ニ

異ナラス如此税ヲ措テ問ハス其國ヲ文明ト稱スヘケシ
ヤ石鹼ノ税ハ清潔ノ税ニ等シ清潔ハ行ヲ励マシ風俗ヲ
開クノ一端ナリ税ヲ取ルヘカラス印票類ノ税ハ正直ノ
税ニシテ人ヲ害スル者ヲ助ケテ害セラルル者ヲ抑フル
ニ近シ壯年ノ税ハ人生ノ已ムヘカラサル者ニ税スルナ
リ保證ハ税ハ遠慮及ヒ謹慎ノ徳ヲ損スル所以ナリ凡此
類皆税ヲ取ラサルヲヨシトス
直税関税ノ利害ヲ比較セハ明智ノ人ハカナラ直税ノ
勝レルヲ証スヘシ許多ノ得失ハ姑ク論セス只其催徴ノ
一事既ニ直税ノ勝レルヲ見ルニ足レリ

通税別税

前ニ云租税ヲ國中ニ分配スルニ偏重偏輕ノ差アル
ヘカラスト其意蓋シ受クル所ノ政ニ相當セル租税ヲ出
サレメントナリ實ニ國中一統ノ民ノ國中一體ノ政ヲ受
クルカ故ニ亦一様ノ税ヲ收ノサルヘカラス當然ノ理ナ
リ但シ瓦來斯ノ山中ニ住スル者ハ倫敦人ノ如ク氣燈掃
除及ヒ警衛ノ利ヲ受クス迷徳塞ノ農民ハ林間人ノ如ク
浴ヲ乾カスノ利ヲ受クサルノ類ハ自ラ一概ニ論スヘカ
ラス是故ニ何地ニ抱ハラス凡ソ租税國中一體ニ係ル者
アリ各地一所ニ係ル者アルカ故ニ自然ニ通税別税ノ差
別ヲ生ス前章論スル所ノ者ハ皆通税ノ事ナリ別税ノ事
ニ至テハ當ニ次ニ之ヲ論スヘシ

英國ニ於テハ別稅ヲ總稱シテ「トイ」トイフ猶割合トイ
フカ如シ哥謂貧院割合寺割合郡割合等其用ハ其名義
以テ知ルヘキカ如ク一地一事ノ用ニ弁スルニ過キ又是
ヲ以テ或ハ一地ニ稅レ或ハ一人ニ稅レ或ハ東家ニ稅レ
テ西家ニ稅セサルカアリ其大權ニ至テハ政府常ニ之ヲ
統轄ス然レトモ政府時アリテ各地人民ノ教育保護平安
ヲ謀リテ之カ為ニ方畧ヲ設ケレメント欲スルカアルカ
ハ各地ヲシテ自ラ政ヲ行ハシメ且ツ之ニ政權ヲ借レ之
ヲレテ右等ノ割合ヲ催促スルコトヲ得セシムルナリ
民間收入ノ發見シ及ヒ蓄積ヲ國中ニ分配スルノ法如何
新器妙術ヲ發明シ及ヒ畜積ヲ國中ニ分配スルノ法如何

并ニ何様ノ處置何等ノ法制民間ノ利害如何前ニ既ニ畧
之ヲ論ス読ム者善ク了解スルニ夫レ經濟ノ趣意ハ徒ニ
財貨ヲ増殖スルノミニ非ス其増殖スル所ノ財貨ノ人間
ニ公布レ普ク共同ノ利益ヲ生スルニ在リ是ヲ以テ富ヲ
致スノ道ヲ講スルノ學ハ頗ル重要ノ事ニ屬スト雖共同
ノ利益ヲ生スルノ學ハ更ニ之ヨリ重要ナリ試ニ問ノ富
ヲ致スノ道ヲ講スルノ外公同ノ利益ヲ生スルニ何事ヲ
講スハキヤ曰ク富ヲ消費スルノ道ヲ講スヘシ之ヲ俗耳
ニ通シ易カラシメシ凡テ國中ノ人民毎年所得ノ利分
ヲ遣ヒ棄ルニ自ラ利害ノ差別アレハ此差別ヲ穿鑿スル
ヲ云フナリ但シ此穿鑿頗ル混乱シテ條緒ヲ誤リ易キカ

故に先づ其一年間所得ノ利分ノ本義ヲ前論ニテ以テ其
一端ヲ發スヘシ
夫レ一國ノ收入ノ全額ハ國中各民ノ利分ヲ總括スル者
ニシテ國民ノ一年間工業ノ成績ニ外ナラス工業ノ成績ノ
形一ナラス大抵金貨ニ比シテ之ヲ稱ス或ハ雇直トイヒ
或ハ地代トイヒ或ハ利分トイヒ皆然ラサルナリ
地代利分ハ土地財本ヲ以テ生ズ故ニ土地財本ノ價ハ常ニ
地代利分ニ從テ低昂ス假令ハ農工商何業ニ抱カラス一
百金ノ財本ヲ借リテ四百金ヲ得ルトスレバ年々四百金
ツ、得ル所ノ産業ノ價ハ一万金ナルヘシ又農工商年々四
百金ノ收納アル田地ヲ所持シ一旦之ヲ賣ルトシテ後セハ

買人相迫テ後其價亦必ス一万金ニ至ルヘシ然レトモ賣
買ノ間ニ別段ノ緣故アレバ右ノ常理ニ合ハサル者アル
ヘシ之ヲ要スルニ土地ノ價若クハ都テ年々收入アル産
業ノ價ハ其利分ノ相場ニ從テ低昂スルハ常理ナリ英國
ノ如キハ地代甚低シ故ニ土地ノ價ハ高シ之ニ比スレバ
合衆國及ヒ澳地利ノ如キハ物産ノ利多キカ故ニ其地代
高シ乃チ其土地ノ價ノ低キヲ知ルヘシ
消費
凡ソ物ヲ造ルノ主意ハ之ヲ消費スルニ在リ而シテ消費
ノ主意ハ其効能ヲ採リテ我平生ノ用ニ供スルニ在リ消
費ノ法良否一ナラス學者善ク之ヲ察セハ以テ其民俗ノ

開否ヲ判スヘシ
一國ノ民年々消費スル所ハ量其收入スル所ハ量ニ等ハ
キ故或ハ之ヨリ大ナルハ其國ニ儉約ノ道行ハレズ之
依テ財本増サス人口増殖セス若シ増殖スレハ各民ノ受
用漸ク窮迫ニ至ルヲ知テ
消費ノ道ニ端アリ或ハ之ヲ消費シテ他物ハ生シ或ハ之
ヲ消費スル雖他物ハ生セス心ヲ經濟高直タル者善ク此
ニ端ヲ弁明セサルハカラス假令ハ甲乙二人均シク十萬
金ヲ費以者アリ甲ハ花園ヲ造リ厩犬部屋等ヲ建テ自ラ
以テ志ヲ得タリトス乙ハ地面ニ水竇周塙等ヲ造リテ益
耕作ニ用ニ備フ議者曰ク甲ノ所為ハ一度費セハ復タ回

ラス乙ノ所為ハ物ヲ造ルノ用ニ供ス特ニ自ラ利スルノ
ミナラス亦大ニ人間ニ功用アリ彼ノ財ヲ節シテ蓄藏ス
ル者ノ如キモ亦然リ饒ヒ自ラ之ヲ用フルト能ハサルモ
他人ヲ借リテ以テ世用ニ供セシトス
此章ニ於テハ他物ヲ生スルカ為ニ消費スル所ノ者ヲ論
セスレテ只一度消費シテ復タ回ラサル者ノミヲ論ス凡
ソ此消費ニ亦三様ノ別アリ世ハ為ニ利ハル者ニナリ世
ハ為ニ害ハル者ニナリ世ハ為ニ利害ナキ者ニナリ但シ
凡ソ各人ノ收入雇直地代利分等何ニ限ラス先ツ之ヲ以
テ自己ノ身軀ヲ初メトシテ家屬奴隸ノ徒ヲ保存セサル
ハカラス故ニ之カ為ニ必要ナル量ハ爰ニ之ヲ論セス只

其餘ノ量ヲ用フルニ當テ利害ノアル所ヲ論スルノミ
 所謂消費ニ於テ世に害アル者ハ放蕩沉溺驕奢賄賂嫉妬
 謀暴行等ノ為ニスル者ヲイフ凡此類初ヨリ之ヲ海中ニ
 投スルヲ勝レルニ若カス
 所謂消費ニテ利害ナシトハ或ハ家ヲ造リテ人ヲ住シメ
 ス或ハ肥沃ノ地ヲ耕サスシテ他人ノ之ヲ入ルヲ許サス
 或ハ世ニ稀ナル奇物ヲ好ミ之ヲ買ヒ或ハ功德ヲキ人
 ノ為ニ石碑若クハ堂塔ヲ建テ或貴公子ノ所為ノ如ク泉
 水ヲ掘リ又之ヲ埋メ或ハ太平海ヲ汲益サント欲シ或ハ
 南北極地ノ冰山ヲ除去ラント欲シ或ハ穴ヲ掘リテ地心
 ニ至ラントスルノ類ニ費スライフナリ

所謂消費ニテ世ノ為ニ利ヲ成ラズハ大都會近傍ノ地ヲ納
 レテ都入遊觀ノ所トナシ或ハ病院病院学校ヲ建興シ或
 ハ奇器妙術ヲ購テ國中ニ傳教シ或ハ資ヲ投シテ種々ノ
 善舉ヲ助クル等總シテ世人ヲ見ルノ兄弟ノ如ク公明ノ
 心ヲ以テ其不幸ヲ憐ミ之ヲ救フノ類ヲイフナリ
 世上一種ノ癡説ヲ立テ無益ニ財ヲ費スト雖世ノ融通ヲ
 助クヘシトイフ者アリ如此惑ハ收入消費俱ニ貨幣ナル
 カ故ニ起ルナリ若シ物品ナラバ此惑何ニ依テ起ラシヤ
 假令ハ今許多ノ穀物ヲ收入シ之ヲ地ニ委シテ腐壞セシ
 メハ之ヲ無益トイハサル者ナカルヘシ若シ初メ貨幣ニ
 テ收入シ後之ヲ穀ニ代テ腐壞セシメハ貨幣ヲ腐壞セシ

又此三等之類カラズヤ且夫此無益ノ物ヲ賣レハ其人固ニ
利ヲ得ヘシト雖買者ハ其價ヲ失フニ等シ若シ買者再ヒ
之ヲ他人ヲ賣レハ他人マタ其價ヲ失フヘシ如此轉輾相
送レハ到底必ス損失ヲナス者アラシ所謂融通ヲ助クル
ヲ説マタ未タ其據ヲ見ス
世間往々無益ノ財ヲ擲テ一時權勢ヲ得ル者アリ其光輝
可恐可羨カ如シト雖其實ハ人間ノ為ニ何等ノ用ヲ為サ
ズ是レ所謂世ヲ欺クノ徒ナリ夫ノ賢者ノ財ヲ抛ツカ如
キハ之ニ異ナリ其入少分ノ才徳ヲ兼備シ天下後世ノ利
益ヲ熟計シテ之カ為ニ私有ヲ散レテ惜マサルナリ試ニ
思ヘ今日吾人ノ口ヲ極メテ稱賛シ其徳ヲ仰テ止マサル

者ハ昔日何事ヲ為セシ人ナルヤ果シテ一時財ヲ抛テ世
ヲ欺キレヤ將タ後世ノ公益ヲ計リレヤ

結尾

世界生物ノ數亦多シ而レテ其家モ脆弱ニシテ家モ助力
ヲ待ツ者ハ小兒ニ如クハナレ雖雛鷺雛羊仔馬仔ノ如キ
ハ脆弱ナリト雖猶能ク自立シ歩行ス只人子ハ須臾モ双
親ノ輔翼ヲ欠クヘカラス推シテ之ヲ論スレハ特ニ小兒
ノミナラス十分成男ノ者ト雖塵ニ智カラ用ヒサレハ猛
獸大蟲ノカニ抗スルヲ能ハス試ニ問フ人ノ脆弱ナルヲ
如此何ヲ以テ善ク萬物ノ上ニ位シ隨意ニ之ヲ使用スル
ヲ得ルヤ曰ク生來只一箇ノ道理ヲ具スルニヨレリ人

生來道理ヲ具ス雖之ヲ研カサレハ甚タ微ニレテ殆ト
 無キニ至リ又之ヲ研ケハ次第ニ發達レテ其際限ヲ見ル
 可ナレ
 凡ソ道理ノ發用ハ考察追想ノ二端ヲ主トス善ク考察ス
 故ニ善ク將來ヲ虞リ善ク追想ス故ニ善ク前轍ヲ鑑ハ此
 二端常ニ相參ツテ用ヲ為シ而シテ舊弊ヲ釐革シ新法ヲ
 創立スルノ事之ヨリ生ス然レトモ人生レナカラ之ヲ全
 備スル者ニ非ス其襁褓ニ在ルノ際ハ蒙昧無智ニレテ香
 カニ禽獸ニ劣リ其長スルニ及ンテ畧能ク之ヲ養ヘハ忽
 チ禽獸ノ上ニ出ルトイヘトモ養ハサレハ猶禽獸ノ區域
 ヲ免レス

鳥ハ道理ヲ具スル者ニ非ス然レモ善ク勉勵辛苦シテ巢
 ヲ造リ以テ其子ヲ養育ス况ヤ道理ヲ具セル人ニシテ小
 兒ヲ教養スルノ法ナカルヘケンヤ益シ小兒ノ教養ニ於
 ケルハ猶雛ノ巢ニ於ケルカ如シ人亦善ク辛苦勉勵シテ
 教養ノ法ヲ益シ鳥ノ為ニ笑ハル、ト勿レ
 凡ソ民俗ノ開否ヲ察スルノ法之ヲ其幼童教育ノ法ニ徴
 スルヨリ著明ナルハアラス試ニ見ヨ彼ノ野番未開ノ民
 ハ其子ヲ裸躰ニシ常ニ十分ノ食物ヲ給セス况ヤ保護教
 導ノ法ニ於テヤ故ニ其成長スルニ及ンテ智力殆ト衣
 食ヲ計ルニ足ラス禽獸ト相異ナラサル者ハ幾希ナリ然
 ルニ風俗開明ノ民ハ之ニ反シ子ヲ育ツルノ法甚タ至リ

寒ケレハ家ニ居リ衣ヲ著セテ之ヲ煖メ飢ユレハ十分ナ
ル食物ヲ與ヘ脆弱ナレハ之ヲ輔翼シ無智ナレハ之ヲ教
導ス
是故ニ民俗開明ノ進歩ヲ見ルヘキ者少ナキニ非スト雖
其策モ著明ナルハ幼童教育ノ一事ニ在リ蓋シ幼時教導
ノ法ナケレハ資性何程美ナリト雖決シテ有用ノ實才ヲ
為サレハナリ
經濟ノ學包括極メテ廣シ此編ノ如キハ九牛ノ一毛ニ過
キス然レトモ要ヲ提ケ畧ヲ擧ケ勉メテ其体裁ヲ存シ初
学ノ徒ヲシテ容易ニ從入スル所ヲ知ラシメント欲スレ
ノニ抑人ノ世ニ在ル時勢ニ變遷アリ人事自ラ推移ス若

シ此學ニ通セサレハ何ヲ以テ處置ノ宜シキヲ得ニ一行
一止ハ利害ノ所係或用或捨得失隨テ判ス况ニヤ吾人ノ
前後左右殆ト災害ノ為ニ圍マル者ノ如シ苟シクモ其
故ニ通シ預シメ之カ備ヲ為サスハ安シク善ク時ニ臨
テ之ヲ避クルヲ得ンヤ學者善ク心ヲ此ニ用ヒハ此書簡
單ナリト雖モ未タ必シモ少補ナクンハアラス

經濟小學下編終

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、

發兌

東京室町三丁目

紀伊國屋源兵衛

終

